

以森伝心

理事長 柏原康夫 筆

第 14 号

2011 年 8 月

特集：インタビュー「祈りと森」

賀茂御祖神社（下鴨神社）宮司 新木 直人氏

森林に関わる人々 第4回

森林で活動する人々①

森と木のナルホド講座 第10回

国際森林年を記念した取り組み

チーム以森伝心ニュース

宮津の高校生、被災地支援活動で関東にエール



京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

賀茂御祖神社（下鴨神社）宮司

あら き なお と
新木直人氏

森に触れて心が軽くなりすっきり することも神への祈りに通じている

京都三大祭りのひとつ「葵祭」で有名な下鴨神社。境内には^{ただ}緑の森を擁し、京都の市街地にありながら緑の豊かなこの地は信仰の場であると同時に、市民の憩いの場としても親しまれています。

日本神話にも登場する由緒正しい下鴨神社で、新木直人宮司にお話をうかがいました。

下鴨神社は、正式名称を賀茂御祖神社といい、主祭神は玉依姫命と賀茂建角身命。葵祭をはじめ、流しびなや斎王代禊の儀、流鏑馬神事などの行事で知られる、京都を代表する古社である。境内ではみたらし祭や古本市など一年を通してさまざまな催しも開かれ、周辺住民にも親しまれている。現在も人々の暮らしの身近にある下鴨神社だが、この地との結びつきは非常に古く、その歴史は弥生時代までさかのぼる。

「下鴨神社は『日本書紀』や『古事記』などにも登場しています。いわゆる神武天皇の東征において、神武天皇を大和

どが出土しており、信仰の形跡が認められました。その出土品の一部は復元し、現在の神事にも用いています」

八咫鳥のエピソードに少し触れておくと、東方に天下を治める都を造ろうと、九州から大和に向かった神武天皇が、さまざまな障害に阻まれ、気がつけば深い森の中で道に迷っていた。その時、どこからともなく一羽の巨大なカラス「八咫鳥」が現れた。八咫鳥は天照大神が遣わした神で、神武天皇の先導をする役目を帯びていた。神武天皇はその後に続いて、森を抜け、吉野から大和へと入り、ナガスネヒコを退治した。その後^{かしわらのみや}橿原宮において、初代天皇として紀元前 660 年に即位する。

悠久の時を越えて脈々と信仰されている「神」の存在は、当時はどのようなものだったのか。

「その頃の京都はほとんどが川や沼で、いわゆる湿地帯が広がっていました。わずかな陸地の部分に森があり人が住み、田や畑などを作り、住居を構えていました。その中でも神様を祀る場所とされていたのがこの地だったようです。

当時は人間より優れた能力を持つものを神として崇めていました。例えば馬は人間より力があり、走るのも速い。樹木も一年間に何センチも大きくなる能力がある。そこに神が宿るという考えでした。人間には真似できないという驚きの中に信仰があったのです。そうした信仰から、弥生時代にはすでに神事が行われていたのが、今日の神社の原型になりました」

現代社会に暮らす私たちでも、森を訪れると自然への畏敬の念を抱いたり、人間が太刀打ちできない力を感じたりすることがある。文明は変遷を重ねても、弥生時代以前から変わらない日本土着の感覚が確かにあるようだ。



へと先導した八咫鳥が、当社の祭神・賀茂建角身命の化身とされています。しかしこの地における信仰は、それよりずっと以前からあったようです。平成 2 年から現在も続けられている発掘調査では、神事に使用されたと思われる弥生時代の土器な

あら き なお と
賀茂御祖神社（下鴨神社）宮司 **新木直人**

昭和 12 年、賀茂御祖神社職舎にて生まれる。京都市伝統行事伝承者。京都市伝統芸能功労者。全国賀茂社連合副理事長、社会福祉法人迦陵園後援会長、京都創生 100 人委員会委員、葵祭行列協賛会理事、他多数の役職を務める。

下鴨神社は境内に「糺の森」という森林を擁している。賀茂(鴨)川と高野川が合流する三角州の一带に位置し、3万6千坪、東京ドーム約3倍の面積には紀元前3世紀ごろと同種の植物相をおおむね留めている森林が残る。石器時代からの人々と自然や森林に関わる遺跡や遺物も現存している。元はこの何倍もの広さがあり、境内に集落さえあったこともあるという。

平成6年には世界遺産条約に基づき、「古都京都の文化財」として「世界文化遺産」に認定。下鴨神社も糺の森を含めて登録された。

『「世界文化遺産」として、世界人類共通の宝物として未来永久に次世代に伝えてゆく誇るべき文化財であると認められました。今後も永くこの森を維持していく決意を固めました。

しかし近年、各地で取りざたされているマツ枯れやナラ枯れは糺の森を例外としていません。マツ枯れは一段落したのですが、今年はナラ枯れの被害が深刻になっています。境内には1000本のカシやナラがありましたが、そのうち200本がその被害に遭い、100本は切らざるを得ませんでした。それでも最大限の対策を講じることができています。

糺の森の環境は、ずっと人が維持管理をしてきました。江戸時代末までは、全国各地の社領からの支援で整備されてきました。明治初年からは、今日の市民運動のさきがけのように、「下鴨神社神苑保存会」が洛中洛外の市民の皆様によって設立されました。今日では「財団法人世界遺産賀茂御祖神社境内糺の森保存会」を設け、保全と保護の啓発活動を進めています。この森は市民の皆さんの思いで守られてきた森といっても過言ではありません」



ナラ枯れの対策がほどこされたナラの木

糺の森は、幾度となく大乱による戦火や賀茂(鴨)川・高野川の氾濫に



境内には2009年「日本の森を守る京都サミット」の際に植樹をした紅葉が順調に育っている

よって姿を消しそうになった歴史も持つ。しかしその度に、元の姿を取り戻そうとする人々の思いで、現在までその姿を留めている。その理由の根底には、自然に対する深い信仰だけではなく糺の森に対する愛着のようなものがあつたのではないかな。

「私はこの神社で生まれ育ったので、糺の森でもよく遊びました。ターザンごっこなんかよくしましたよ(笑)。神聖な森という感覚もありますが、同時に親しみの持てる場所でもあります。幼少時代に森林や自然に触れることで、体や心が勝手に覚えることもたくさんあります。それが自然を大切に作る心の礎になるはずですよ。今でも子どもたちは森で遊んでいますし、大人たちは散歩やランニングをするなど、ごく自然に糺の森に触れた生活をしています。触れてもらうだけでもいいんです。

参拝するということは、神様に手を合わせてお祈りやお願いごとをするということだけではなく、自分自身の心の洗濯をすることです。森に触れて心が軽くすっきりすることも神様にお祈りしたことに通じているのです」

「森を守る」と一口には言っても、それぞれの森がどのように人と関わってきたかによってその成り立ちや姿、維持管理の方法も様々である。太古から、人々の生活との関わりの中で脈々と守り受け継がれてきた下鴨神社は、これからも人々の心の拠り所として共にあり続けるのだろう。

まめ^{まめ}豆茶と申餅^{さる}が復活！！

平成27年の式年遷宮に向けて、糺の森に休憩所が新設され、近年姿を消していた「まめ豆茶」と「申餅」が味わえるようになりました。「糺の森の、木々の緑に包まれて一服しながら、じっくりと神社の歴史に触れてほしい」という新木宮司の発案により復活しました。

「まめ豆茶」は、御蔭祭(5月12日)の1週間前から神職が^{やしろ}お社にこもる「参籠^{さんろう}」の際に服されていました。しかし千年ほどの歴史があるとされる「まめ豆茶」は、昭和35年頃に参籠所が壊れてから途絶えてしまいました。一方「申餅」は葵祭前の申の日に食べて無事息災を祈る縁起物として庶民に広く親しまれていましたが明治期に姿を消していました。

下鴨神社へのお参りの際は、神社の伝統の味を堪能してみては。



丹波黒大豆を用いたきれいなワイン色のまめ豆茶は境内の湧き水で淹れられる。申餅は、小豆のゆで汁でついた、「はねず色」の餅に丹波産小豆を包んであるのが特徴。セットで550円。

もり 森林に関わる人々

かつて、森林が元気だった頃、人々はさまざまなかたちで森林と関わっていました。食事の炊炊きに使う薪を集めたり山菜を採ったり、あるいは猟をしたりと、どの家庭も森林との関わりのなかで暮らしていました。そして現在。「森林の大切さを見直そう」「美しく豊かな森林を取り戻そう」という気運が高まってきましたが、人々はどのように森林と関わっているのでしょうか。当コーナーでは、森林に関わる人々について紹介します。

第4回 森林で活動する人々①

今回は、森林でのレクリエーション活動・自然環境教育の指導やアドバイスなどを行う「人」や「団体」を紹介します。

「森林インストラクター」をひと言でいうと「森の案内人」です。森を利用する一般の人々に森林や林業についての知識を伝えたり、森林の案内や森林内での野外活動を指導したりするので、森林をはじめ、林業、山林、樹木、生物、地形、文化等々自然について、幅広く一定レベルの知識と経験が求められます。平成3年からは農林水産大臣認定の*資格制度(平成17年から農林水産大臣・環境大臣登録事業)として確立しています。

京都森林インストラクター会

京都森林インストラクター会は、全国森林インストラクター会の支部として平成10年に会員19名で発足。現在の会員数は約70名。指導技術や知識の向上を目的とした会員向けの取り組みだけでなく、森に関心のある人たちから受ける指導依頼への対応や、ボランティア協定を結んでいるフィールドでの森林整備活動を中心とした社会貢献活動を行っています。

活動の内容

「団体や一般の人々への支援活動」は年間90回程度実施、参加者は年間約1500名。具体的な活動は、平成12年から、近畿中国森林管理局が「ふれあいの森」として設定した安祥



ふれあいの森(安祥寺)での間伐指導

寺山国有林の一部を活動フィールドとして、月1回の森林整備などの定例活動を続けています。また「府民の森ひよし」や京都市花脊の「山村都市交流の森」などの年間行事への協力・支援も行っています。

森林インストラクターを目指す准会員を募集します

森林インストラクター資格取得者を主な会員としていましたが、平成23年から森林インストラクターを目指す方を准会員と位置づけて募集しています。資格取得には理論だけではなくフィールドでの経験も重要なので、実践を提供する場になると思います。もちろん、資格所有者の正会員も募集しています。興味をお持ちの方は、右記までご連絡ください。

また一般からの協力要請には、会員個々の得意分野を活かし、プログラムの作成や活動へのアドバイスなどを行っています。なお、モデルフォレスト協会の「森の人材バンク」にも登録。府民の森ひよしでの「森林体験教室」や京都大学桂キャンパスの「竹の環」プロジェクトなどにも指導スタッフとして参加しています。

「会員向け活動」は2ヶ月に1度の研修会を開催。支援技術のスキルアップや提供プログラムの充実を図っています。

※資格取得の試験：社団法人全国森林レクリエーション協会が実施。科目は、「森林」「林業」「森林内の野外活動」「安全及び教育」の4分野。全科目の合格が必要。

社会貢献としてやりがいのある取り組み

私たちは森林インストラクターとして、幅広い年齢層の方と接する機会があります。そうしたなか感じるのは、子どもの頃に自然に親しむことが、大人になって森林に興味を持つ土台作りになるということ。まずは何よりも自然のなかに身を置き、親しんでもらうことが大切だと考えています。

森林インストラクターの試験には、机上の理論だけでは回答が難しい問題も多く出題されます。森林を知っていることは、現場で感じ取ることも大切だということのあらわれだと思います。一方、最近は森林での活動経験がなくても森林に興味を持つ方も増えてきています。そういう方々に対しても積極的にアピールし、間口も広げ、森に対する関心がますます高くなるようお手伝いができればと思っています。



篠部幸雄(しのべゆきお)

京都森林インストラクター会会長。幼少の頃から、父と共によく登山をしていた。親戚に林業従事者もいたので、森林の環境に馴染んで育つ。多くの人々に森林の素晴らしさを感じてもらいたいと活動している。

連絡先：京都森林インストラクター会

〒600-8127 京都市下京区木屋町通梅湊町 83-1

ひと・まち交流館京都

市民活動総合センターメールボックス No.6

E-mail: minachan@mtg.biglobe.ne.jp (事務局)

HP: <http://www.shinrin-instructor.org/>

京都モデルフォレスト協会 平成 23 年度 定時総会



京都モデルフォレスト協会理事長・柏原氏

5月19日(木)、京都平安ホテルにおいて当協会定時総会が開催されました。

柏原康夫理事長は、冒頭の挨拶で、協会の取組に対する関心の高まりや参加企業の増加など、年々拡大するモデルフォレスト運動についての今後の展望を国際森林年の取り組みにも触れながら述べました。

京都府の太田昇副知事からはモデルフォレストの活動に対する期待の言葉をいただきました。

その後、古田裕三氏を議長に選出し、平成22年度の決算が承認され、平成22年度の事業及び23年度の事業計画・収支予算が報告されました。

また、今回は役員改選の年にあたり、理事及び監事の候補者全員が承認されました。

※総会後開催された理事会において、柏原理事長、立本副理事長、太田副理事長が再任されました。

記念講演報告



総会に続く記念講演には、貴船神社宮司の高井和大氏をお招きし、「森と水の信仰」と題してご講演をいただきました。

〈ご講演の要約〉

貴船神社と高麗神

古来、日本人は自然のなかに神々が宿ると信じてきた。特に水は命の源とされ、不思議な力があると考えられている。「水に流す」という言葉から分かるように、水には清めの力があり身体だけでなく心の汚れまでも祓ってくれるという日本独特の感覚が隠されている。

その水を司る神が貴船神社の御祭神「高麗神」。この神は雨を司るだけでなく、地上に降った雨を地中に蓄え、適量を地表にわき出させる役割を担っている。水を蓄えるのは大地に根を張る樹木。そのため、元々「木生嶺」といわれた樹木の生い茂る水源の地に貴船神社が建立された。創建は第十八代反正天皇の御代(406～411年)とされるが、京都に都が置かれてからは、氾濫を繰り返していた鴨川を治めるという重要な役割も加わった。

また日本人は、水を崇めると同時に植林の文化も根付かせていった。神話ではスサノオノミコトが木を生み、木の使い方を人々に伝えたとされ、その息子であるイソタケルノミコトが日本全国に植林をしたとある。

伊勢神宮の20年に1度の式年遷宮は、常に新たに清浄である(「常若」)ために必要な儀式。建物を新しくすることは神の生命力を蘇らせることを意味する。使われる1万本以上のヒノキは今回(平成25年、第62回御遷宮)では神宮の宮域林と木曽の御用林のものが使用されるが、以後は宮域林のみでまかなえるよう、200年計画で造林事業が進められている。解体される旧殿の木材は、全国の神社の造営等に再利用される慣わしになっている。

水の恵み、木の効能、それらを維持するための循環の考え方。日本人は自然のなかからそれらを学んできた。今こそ、地球規模で日本人の視野を持って循環を考えていくことが必要なのではないだろうか。



森と木の ナルホド講座

監修：京都モデルフォレスト協会

前号でご紹介のとおり、

今年は国際森林年です。

日本国内でのテーマ「森を歩く」に向けて、
各地でいろいろな取り組みがなされています。

ここ、京都ではどのような取り組みが
計画されているでしょうか。

第10回：国際森林年を 記念した取り組み

キーワードは「次世代への継承」



2011・国際森林年

本年は国際森林年で全国各地で記念事業が開催されています。その一つとして琵琶湖・淀川流域の府県や農林水産省などが協力して「市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 琵琶湖・淀川流域」を開催しています。この事業は、上流域の水源の森から下流域の都市部までを一体としてとらえ、全4回のリレー形式で開催。森林の恵みや木を活かす知恵を次世代に継承しようとする取り組みです。

地域ごとに「森を歩く」「森を学ぶ」「森を語る」「森をつなぐ」というテーマを設定し、上流域の森林から下流域の都市までが、ともに支え合って生きていることを実感しようというねらいです。

第1弾は7月23日に滋賀県が「森を歩く」をテーマに開催。約80名の参加者が山門水源の森を森林ガイドの説明を聞きながら散策しました。

第1弾 「森を歩く」

びわ湖を支える水源の森林体験ツアー
(びわ湖の日30周年)

日時：2011年7月23日(土) 10:00～16:00
場所：山門水源の森(長浜市西浅井町山門)
長浜市西浅井文化ホール(長浜市西浅井町大浦)
主催：滋賀県

終了

第2弾 「森を学ぶ」

シンポジウム「国産材を活用したヒートアイランド対策」

日時：2011年8月17日(水) 13:30～16:30
場所：大阪木材会館(大阪市西区新町3-6-9)
主催：大阪府、(社)大阪府木材連合会

第4弾 「森をつなぐ」

未来に向かって、森を活かそう

日程：2011年10月下旬
場所：万博記念公園内
主催：大阪府、(独)日本万国博覧会記念機構

当協会も京都府との共同主催で、第3弾「森を語る～以森伝心～」野外シンポジウムを京都府立植物園において開催します。

信仰の場としての森、人々の暮らしを支えてきた里山、市民の憩いの場である街なかの緑など、様々な形で私たちの心や暮らしに森林は深く関わっています。これを機に今一度、京都における森林に思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。

なお、各地の取り組みは国際森林年HP(<http://www.iyf2011.go.jp/>)をご覧ください。

京都で開催

第3弾 「森を語る」

野外シンポジウム「森を語る～以森伝心～」

2011年8月27日(土) 13:30～16:00

場所 京都府立植物園

定員 100名(先着順)

入場料 無料(下記より整理券を申し込んでください。)

主催：京都府、京都モデルフォレスト協会

■プログラム

基調講演「修験」と「森」

宮城泰年氏(本山修験宗管長、聖護院門跡門主)

鼎 談 森を語る～以森伝心～

〈信仰と森〉宮城泰年氏(本山修験宗管長、聖護院門跡門主)

〈里山と森〉只木良也氏(国民森林会議会長、名古屋大学名誉教授)

〈市民と森〉高原 光氏(京都府立大学大学院教授)

申込み締切：8月15日(月)

■問合せ・申込み

お名前、住所、連絡先を明記の上、はがき、FAX、
電子メールのいずれかにてお申込みください。

入場整理券をお送りします。

※電話でのお申込みはご遠慮ください。

公益社団法人京都モデルフォレスト協会

〒602-8054

京都市上京区出水通油小路東入ル 京都府庁西別館

FAX：075-414-1270

電子メール：kyomori@kyoto-modelforest.jp

チーム以森伝心ニュース

「チーム以森伝心」メンバーがレポートします！

宮津の高校生、被災地支援活動で関東にエール



避難所生活の人々に、目隠し用の木製簡易間仕切りを送ろうというNPO「伝統木造の会」の呼びかけを知った府立宮津高校の生徒たちが力を集結、製作した間仕切りを京都府が支援する福島県へ寄付しました。

間仕切りは、縦 1,950mm、横 950mm で府内産の杉とアカマツが使われています。建築科の3年生23名が4月13日から休日も返上し、5月半ばまでに62枚を完成させました。パネルには生徒たちのメッセージが貼られ5月19日、生徒・教職員の見守る中、福島県へ出発しました。

避難所生活の人々に、目隠し用の木製簡易間仕切りを送ろうというNPO「伝統木造の会」の呼びかけを知った府立宮津高校の生徒たちが力を

パネルは大熊町立小学校や猪苗代町役場、福島県会津合同庁舎など数



力所に配送されました。福島県立会津工業高校では、同県立小高工業高校のサテライト校が開設されていて、被災した1年生から3年生まで4学科28名の高校生が通学。「機械科の3年生がパネルを組み立て、教室を二つに区切り選択科目の授業が受けられるようになった」と府立宮津高校に感動の手紙が届いています。(森 稔) ※電話にて取材



見学に行ってきました！エコハウス ～京都府産材の住宅に住んでみませんか～



近年、日本の住宅は木造建築から、高気密・高断熱といわれるコンクリートや新建材で建てる住宅へと変化していきました。また、木造住宅も使用する材の多くを海外からの輸入に頼ることになり、国内の林業が衰退し森林の整備も充分に行うことができなくなってきました。この様な状況の下、これからの森林のあり方を考え森林整備活動を実践する場として「京都モデルフォレスト運動」が始まりました。

ただ、地元産材などの自然素材で住宅を建てることは、なかなか手間暇がかかり、一般に普及していないことな

どから、ほとんど知られていないことがハードルとなっていました。

「京エコハウス」は地元産材と自然素材の魅力を感じることができるモデルハウスとして建築されました。日本の住宅は古くから「夏を旨とすべし」といわれてきたように、風が通り抜けて蒸し暑い夏を快適に過ごせるのが良いとされてきましたが、この「京エコハウス」では居間に面した解放感あふれる縁側があり、家の中を風が気持ちよく通り抜けていました。また、処理に工夫をこらし建材として使用されている京都府産材のスギの無垢材も、肌触りが良くて快適な空間を提供していました。人にも環境にもやさしい京都府産材の住宅について、多くの人に知っていただき、住宅建築の際には使って欲しいと思いました。

(西本 雅則)



「チーム以森伝心」では新しいメンバーを募集しています！
興味をお持ちの方は、京都モデルフォレスト協会までご連絡ください。

活動報告

緑の募金、春のキャンペーン報告

今年春に「東日本大震災」が発生し、震災義援金の募集も呼びかけられるなかで、緑の募金に対してもたくさんの方に御協力いただきました。

府内の森林づくりに役立てて参ります。なお、緑の募金の一部は国土緑化推進機構を通じて被災地へもお送りすることになっています。



「京の七夕」関連イベントを実施

7月2日、京都大学桂キャンパスの竹林で、昨年に引き続き「京の七夕」で使用する竹の伐り出しを行いました。堀川会場に飾り付けたり、竹炭に加工して活用されます。参集した人は、猛暑をものともせず、お手本どおりに作業を行いました。



府内各地で企業の森づくり活動始動

新年度になり、各企業から報告をいただきました。

年に一度、月に一度、不定期と活動頻度はいろいろですが、どの報告も森林の中で生き生きと活動されている様子が伝わってきます。

カミッグ、島津製作所、オムロン、京都生活協同組合、平和堂、三洋化成工業、など各社の活動報告は協会のホームページに掲載しています。

このほかにも活動を重ねておられる企業や団体はあります。

ご紹介できていないところもありますので、ホームページ等に掲載できる情報をお寄せください。



「京都大作戦 2011」で募金活動を実施

7月9日、10日の両日、宇治市太陽が丘で行われたイベント「京都大作戦 2011」(FM京都主催)において、当協会会員の森林ボランティア団体「フォレストーうじ」「森なかま」の皆さんと一緒に緑の募金活動を行いました。両日で4万人を超える来場者があり、京都の森を守り育てることの大切さを訴えました。



お知らせ

「みんなで森を大切にしよう」「鳥を愛することをとおして自然環境の大切さを感じよう」と緑化推進運動及び愛鳥週間のポスターコンクールを実施しています。府内全域から両コンクール併せて3,000点近くの応募があり、その中から選ばれた上位入賞作品それぞれ22点ずつが表彰されます。8月17日、上位入賞者の表彰式が開催されます。



表彰作品は23日までイオンモールハナ(京都市右京区)で展示します。

昨年の作品展示会場の様子



発行：公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町 104-2 府庁西別館内

TEL & FAX 075-414-1270 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp>

2011年8月発行

企画・編集：自然堂(じねんどう)株式会社



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包んだ植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用したFSC認証用紙を使用しています。